

8月30日～9月1日、エフコープ・ライスセンターの産直産地視察とGAP点検のため北海道を訪問しました。

産直3原則にそって、圃場の生育の視察と米版GAP二者点検と生産者産地との交流を行いました。

◆8月30日◆

福岡空港から約2時間で新千歳空港へ。その後、留萌市に向かいました。組合長はじめ、11月に来福された女性部の方々と交流しました。美しい海と山に恵まれ極良食味地帯の留萌は、良質な米が出来ることが分かりました。

◆8月31日◆

JA南るもい小平支所にて、作況概況が報告され「今年は『平年並み』の見込みですが、夜温が高くなかったため透明度の高い良質で粒の大きなきらら397になりそうです」と話されました。

その後、生産者の稲作部会長の圃場を視察し、ゆめぴりか生産の「認定マークよりもさらに高い目標を掲げた生産を心掛けています」と、きらら397の生産でも熱い思いを語られました。「6月の低温と日照不足により分けつが発生が遅れましたが、7月の好天により米粒も大きく、開花期に雨も無く、高温の夜が無かったため昨年のようなはら白も無く良質な米になりそうです。9月の日照時間が多ければもっと大きくなりますよ」と教わりました。



JAあさひかわの組合長、JAたいせつの専務同席のもと、生育経過を「1・3月の降雪は少なく、融雪期が平年より3日早まり、播種作業は平年より2日早く4月10日、移植後の好天により活着は良好でした。6月の低温と日照不足により分けつが遅れ、莖数確保は劣り、幼穂形成期は平年より3日遅れました。初期害虫『イネドロオイムシ』『イネハモグリバエ』の発生は少なく、被害はありませんでした。7月に入って高温、多照となり窒素の吸収が高まったことから葉色が濃くなり、生育が早まり、平年並みに遅れを取り戻しましたが、開花はややばらつきが見られました。『カメムシ』『ウンカ類』の発生も多い傾向で『いもち病』の発生が心配されることもありましたが、適正な管理と防除により被害はありませんでした。8月以降、平年並みに生育し、収穫期は9月15日頃の予定です」と報告いただきました。

また、JAたいせつでは、「雪解けが早く、育苗も早くできました。6月10日はジャンパーが不要なくらい寒くなりましたが、7月の好天で春先の遅れを取り戻しました。穂は長く分けつが遅れましたが、夜温も良く品質ははら白も無く良好、9月15日～20日頃収穫できそうです」と報告されました。

各JAともに『甘酒』や『玄米緑茶』を六次産業化していました。交流会では、各JA女性部の新部長2名が参加され、生産のご苦労や地域性（自然や地形、文化）などをお聞きし交流しました。



JA 新すながわでは、エフコープ・ライスセンターのスタッフが中心に GAP（適正農業規範）二者点検を行いました。JA 新すながわライスターミナルにて、現場を確認しながら GAP 点検を行いました。利雪低温倉庫（雪米の蔵）は全ての雪をかきだして収穫準備を始めていました。超低温貯蔵サイロ（冬期間に氷点下 5 度以下の外気をサイロに入れ、籾を休眠状態にすることで品質劣化を防ぐ貯蔵方法 450t×8 基 150t×3 基）は、次年度より 120ch から 240ch へ施設が増強されるため、サイロを増加建設中でした。



ライスターミナルにて確認しながらの GAP 点検

◆9月1日◆

JA なんぼろは今回初めて供給していただく産直産地で、GAP 点検を兼ねて訪問しました。

組合長はじめ役員の方にご挨拶し、ライスセンタースタッフが中心に GAP の二者点検を行いました。南幌町ライスターミナル（米夢 21）で残りの点検を行い、近くの圃場を視察しました。「JA なんぼろではきさら 397 は稲作の半分を占める品種で、青年部が汗をかいて頑張ってくれている」と組合長からお聞きました。

エフコープの概要やきさら 397 の良さを消費者としてお伝えし、今後は女性部とも交流したい旨をお伝えしました。



#### ◆まとめ◆

きらら 397 の北海道産直産地は、今年は何処も**生育状況は同じ**でした。早い雪解けから育苗が早まり、田植えも順調に進みました。しかし6月の低温、日照不足で分けつの発生が遅れました。しかし7月の高温、多照で生育が平年並みに取り戻され、また夜温の高い日が無かったため、はら白も無く、**透明度の高い粒の大きな良質なきらら 397**が期待できそうです。9月の気候が収穫まで高温、多照で、台風が直撃しないことを願っています。交流会では、女性部の方が来福されお会いしていたので「お久しぶりです」から始まり、**とても歓迎していただき嬉しかった**です。また、今回新しくおつき合いを始めるJA産地もあり、なおさら、エフコープ・ライスセンター30周年のこれまでの**長いおつき合いが絆**になっていることを改めて感じた視察でした。

今年もおいしい「きらら 397」がいただけるのが楽しみです。

#### ※GAPとは…

GAP (Good Agricultural Practice : 農業生産工程管理) とは、農業において、食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組のことです。